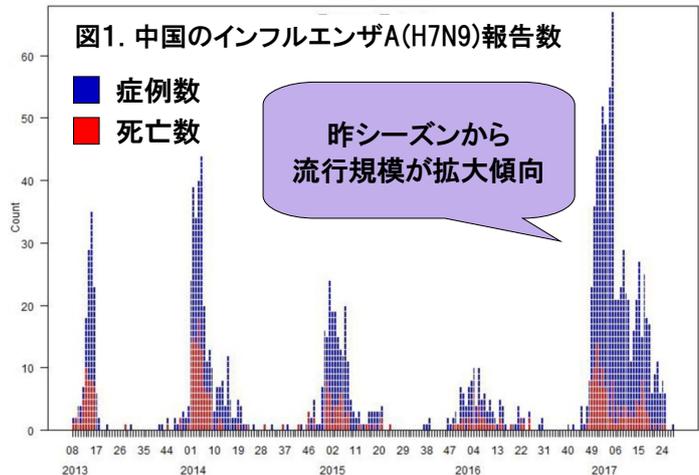




鳥インフルエンザA(H7N9)流行の兆し

感染制御部

今から約8年前の2009年、新型インフルエンザA(H1N1)pdm09が世界的に流行し、日本社会にも大きな混乱・不安が蔓延したことを皆さんも覚えていると思います。2013年より、**中国で新たに鳥インフルエンザA(H7N9)が増加**しています。鳥に対する高病原性株が出現し、2017年はこれまで以上の流行がみられています(右図)。現時点で中国では1500例以上のヒトへの感染例が報告されており、**死亡率は約40%**とされています。



● **感染経路**: ヒトへは主に**生きた家禽類への接触で感染**すると考えられています。家族内や入院中の同室患者間での限定的なヒト-ヒト感染(2次感染)は起こっていますが、ヒト-ヒト間で容易に感染伝播するような能力は獲得しておらず現時点では3次感染例は認めていません。しかし、遺伝子変異により**パンデミックを起こす可能性**は否定できません。

● **症状**: 潜伏期間は1~10日(多くは2~5日)と推定されています。主に高熱と急性呼吸器症状が出現します。重症例では肺炎が急速に進行し、急性呼吸窮迫症候群(ARDS)・脳症・横紋筋融解症に至るケースもあります。

● **予防・対策**: 中国全土で鳥インフルエンザA(H7N9)が検出されています(上図)。中国への渡航に際しては、**生鳥市場への訪問や病鳥との接触を控えてください**。また**発熱と呼吸器症状を伴う中国からの来日・帰国患者に対しては、十分な感染対策を行って診療をしてください**。実際に、マレーシア・台湾・カナダへの鳥インフルエンザA(H7N9)輸入症例が報告されており、国際交流が活発になった現在、日本にもいつ感染が波及するかわかりません。